

科目名	日本文化論	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	アレクサンドル プラーソル		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-340006	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	我々は常に他者と何かことなると区別する時初めて自己の生活様式や自らの特性を自覚する。だから、未知の他国の人と接触を持たない人は自己の本性、本質を知らない。この古代ギリシャの哲人の言葉は今の国際化時代において特別な意義をもっている。大陸文化のつよい影響を受けながら生まれてきた日本文化の特殊性と普通性を考えることはこのコースの目的である。				
学修到達目標	日本文化と民族性格、異文化との比較で現代日本社会の特徴を考えて知識を深めること。日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方法をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	自国と他国の日本人の意識
第2回	日本人は政府への信頼と政治への関心をどのくらい持っているか
第3回	社会安全志とリスク回避、集団主義的な志向

第4回	冒険、ギャンブルに対する意識と人生の価値観
第5回	生と死、信仰に関する意識
第6回	家庭生活の価値観
第7回	子供の教育と学校生活
第8回	余暇と労働時間に関する意識
第9回	仕事選びの条件と働き口に関する意識
第10回	移民の問題と科学技術に対する意識
第11回	原子力発電と環境への取り組み
第12回	日本民族の起源 1 (ビデオ教材)
第13回	日本民族の起源 2 (ビデオ教材)

第14回	日本民族の起源 3 (ビデオ教材)
第15回	日本民族の起源 4 (ビデオ教材)
第16回	レポート①とレポート②を提出する

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。日本民族の起源 3 (ビデオ教材)
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	宿題・授業外レポート50%、授業態度・授業への参加50%を評価の目安とする。テストは実施ないが、2本のレポートを提出しなければならない。1本目は講義中で取り上げられたテーマを対象とするもの(1000字以上)。2本目は視聴する4集のビデオ教材の内容をまとめたもの(2000字以上)。
フィードバック方法	授業内小テストやレポートのフィードバックとして全般的な講評を行い、特に優秀な答案を公表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	<p>テキストは利用しない。</p> <p>参考書： 石田英一郎 日本文化論 筑摩書房 1987            ハルミ・ベフ イデオロギーとしての日本文化論 思想の科学社 1987            築島謙三 日本人を考える 大日本図書 1983            鈴木賢志 日本人の価値観 世界ランキング調査から読み解く 中央選書 2011</p>
受講上の留意点等	<p>テキストを利用せず、毎回資料を配布し、PowerPoint presentationを利用する。学期末テストを実施しないが、出席率66%以上と総字数3000字以上のレポートを提出しなければならない。</p>
JABEE	